

薬草栽培だより

No. 113 令和8年2月20日

富山県薬事総合研究開発センター
薬用植物指導センター
〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732
電話 076-472-0801
FAX 076-472-0353
薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

【気象経過について】

12月の平均気温は7.5°Cとかなり高く(平年差+1.8°C)、総降水量は274.5mm(平年比97%)と平年並となりました。また、1月の平均気温は2.5°Cと低く(平年差-0.5°C)、総降水量は307.0mm(平年比119%)と多くなりました。

向こう1か月の気温は、平年並か高いと見込まれることから、融雪後の適切な管理をお願いします。

1 薬草の管理作業

【共通の管理】

ほ場内に融雪水が停滞しないよう、排水溝の手直しを行うとともに、排水口への連結を徹底する。また、強風によるマルチの剥がれを防止し、新芽が折損しないようマルチを土で抑えるなど対策を行う。

(1) シャクヤク

1) 雜草が発芽する前の除草剤散布 (3月)

融雪後、萌芽前に雑草の種子の発芽を抑えるトレファノサイド乳剤(薬量:300ml/10a、散布量100L/10a)を植穴やほ場全面に散布する。

植穴や通路にすでに雑草が生えている場合は散布前に除草してから行う。

(※散布器は使用の前後に必ず洗浄する。)

2) 殺菌剤の定期散布 (4~6月:月1回の防除)

安定した収量を確保するためには、茎葉の健全な生育が必要です。そのため、病害が発生する前に防除を徹底する。

新芽展葉期(4月上旬)には、ベンレート水和剤(1000倍)、開花期(5月上旬)と生育期(6月)には、ダコニール1000(1000倍)を散布する。

3) 異株の抜き取り

萌芽時期以降、ほ場を見回り、草姿、蕾及び花の特徴が異なる個体(株)を抜き取る。

4) 摘蕾・摘花

蕾が上がったところで、全ての蕾を摘み取る(生垣バリカンや草刈り鎌等で通路に刈り落してもよい)。開花したものも同様に花首から摘花した後、回収しほ場外で処分する。

3年目以降のほ場では「異株の抜き取り」のために1株当たり3本程度の花茎を残す。

5) 追肥

3月下旬と6月に化成肥料を追肥する。株間のマルチを少し破り根の先端部分に軽く一握りずつ与える。

【10a当たりの施肥例: 煉加安15号】

・1年目(植付の翌年)

3月: 20kg (NPK: 3kg) 6月: 40kg (NPK: 6kg)

・2年目以降

3月: 30kg (NPK: 4.5kg) 6月: 70kg (NPK: 10.5kg)

(2) トウキ

1) ほ場選び・うね作り

やや冷涼で、日当たりと排水が良く肥沃なほ場を選定する。土壤酸度はpH 5.5~6.5が適する。強い酸性土には消石灰を入れて酸度を調整する。土質は、埴壌土~埴土が適し、粘土質の強い土壤では根の発育が劣る。

うね作りは土が乾いた状態で施肥、耕起し、必ずその当日にうね立てまで行う。

トウキの施肥 (kg/10a)

肥料	基肥	追肥(6月)
発酵鶏糞	300 kg	
苦土石灰	100 kg	
過磷酸石灰	60 kg	20 kg
化成肥料(煉加安15号)	40 kg	30 kg
油粕	—	50 kg

水田転換畠では、排水溝を設けて、うね高20cmにして水はけを良くし、排水良好な畠地ではうね高10cmの平うねにする。すそ幅は、1条植えで80cm、2条植えで100cm程度とする。

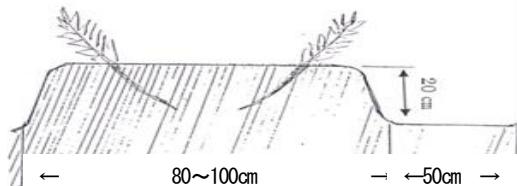


図 トウキの植付け (2条ちどり植え)



図 定植約60日後（6月上旬頃）

雑草対策は、白マルチ（裏面が黒）を張ることにより省力化できるが、直径10cm程度の植穴をあけるため年3回程度の植穴除草が必要である。

2) 雜草が発芽する前の除草剤散布

トウキ定植後、雑草の種子の発芽を抑えるゴーゴーサン乳剤（薬量：300ml/10a、散布量100L/10a）を植穴や通路全面に散布する。

すでに植穴や通路に雑草が生えている場合は散布前に除草してから行う。

（※散布器は使用の前後に必ず洗浄する。）

3) トウキ苗、種子の準備

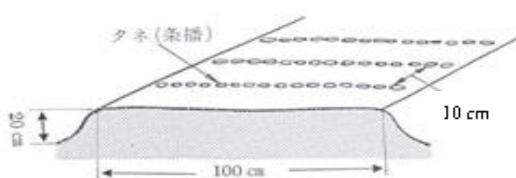
① トウキ苗の準備・定植

苗は10a当たり4,000～4,500本を準備し、（2条ちどり植え）、4月下旬までに定植する。苗は乾燥すると活着（根付き）が悪くなるので、予め希望する定植日を決めて苗を発注する。

② トウキ苗の自家生産

翌春に定植する苗を自家生産する場合は、種子を購入し、5月中旬～6月上旬には種床（うね幅80～100cm、うね高20cm）に条間10cmですじ播きする。1ℓの種子をは種する場合は約0.5aのは種床が必要です。

その後、覆土して乾燥防止のため糞殻を敷き、黒の遮光ネット（遮光率50%）等で9月下旬までトンネル掛けする。



■予約期日：3月13日（金）まで

■苗の価格：7円／本（4,000～4,500本/10a）

※苗の引き渡しは4月上旬頃からを予定していますが、融雪の状況により遅れることもありますのでご了承願います。

■種子価格：450円／0.1ℓ

※種子0.1ℓで約1,000本の苗

2 トウキの集荷について

令和7年秋に収穫されたトウキは、3月下旬から4月中旬に集荷する予定です。当センターから種苗を導入された方は、当センターでまとめて出荷できますので、ご連絡下さい。

11月頃に収穫したトウキは「湯通し」の作業を行い生薬に仕上げます。

「湯通し」ができない場合は、この作業を行う前の状態（一次乾燥根）でも出荷できます。

【一次乾燥根で出荷する場合の作業手順】

- (1) トウキの茎葉を黄色部が見えるまで稻刈り鎌や剪定鋏で切り込む。この時、根の色が黒ずみ褐色の腐った箇所は黄色部がみえる位置まで切り捨てる。その後、風通しのよい室内に並べて乾燥する。
- (2) 調製後の根は腐りやすいため、出荷の前日に通気性のある袋に入れ、袋毎に計量して、氏名・重量を表記し出荷する。

3 令和8年度の薬用作物の種苗価格

近年、購入希望者が少ない品目は、種苗の準備に年数を要するものがあります。希望される方は、当センターに直接申し込み下さい。

作物名	種苗形態	単位	価格(円)	10a当たり所要量
シャクヤク	薬用種	株	40	1,500株
	兼用種	株	350	1,500株
	観賞用種	株	650	1,500株
トウキ	種子	0.1 ℥	450	0.5 ℥
	苗	本	7	4,000 ～4,500本
ミシマサイコ	種子	0.1 ℥	500	2 ℥

4 薬用植物の状況

（1）シャクヤク

・薬用シャクヤクの栽培は、県内では平成22年頃から苗の植付けが急増し、近年の栽培面積は7ha程、収穫量は年次差はありますが10t前後で推移しています。

（2）トウキ

・富山県薬用作物生産振興方針に、生産拡大推進品目として位置づけられています。今後の導入検討をお願いします。

新規栽培者あるいは栽培面積の拡大を希望される方は、当センターまでご相談をお願いします。